

『長濱清蔵のアイヌ語』刊行の意義とこれから

藤田 護

アンデス・オーラルヒストリー工房 (Taller de Historia Oral Andina, THOA)

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部

2025年11月1日(土)

1. 湘南アイヌ語研究会について

前身は千葉大学アイヌ語研究会

沼田武男資料(帯広市図書館所蔵)

→千葉大学アイヌ語研究会(2021)『沼田武男「採訪帖」——アイヌ語十勝方言テキスト集』千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座

平取町アイヌ語資料

片山龍峯氏 アイヌ語鶴川方言日本語—アイヌ語辞典(千葉大学のホームページで公開)

2. だいじなこと

家族のなかでの伝承

地域ごとのアイヌ語とアイヌ語による伝承や語りが大事にされる、学ばれる

過去の録音記録や筆録記録が公開されることの重要性——(1)より正確に言葉とその差異(地域、世代)が分かるようになる、(2)それぞれのアイヌ語伝承者の姿がよりはっきりと分かるようになる

3. 『長濱清蔵のアイヌ語——十勝地方の物語』(図書出版みざわ、2025年)について

(1)アイヌ語について

十勝地方で最もよく知られているのは沢井トメノさんのアイヌ語(切替英雄、澤井晴美、高橋靖以各氏)

特に切替英雄(1996, 1998)「アイヌ語十勝方言による昔話「島を引いて泳ぐオタスの少年の物語」の辞典と文法

(1)(2)」『北海学園大学学園論集』第88号および第98号を参考にしている

長濱清蔵さんのアイヌ語は……

沢井トメノさんのアイヌ語と似ているが少し違うところもある

沼田武男資料(池田サクさん)のアイヌ語と似ているが少し違うところもある

四宅ヤエ(白糠)さんのアイヌ語とも似ているが少し違うところもある

(2)物語について

熊のカムイの騙され方にどれだけのパターンがあったのだろうか?

英雄叙事詩の語りで韻文と散文を行ったり来たりする語り方は、どれだけ一般的なものであったのだろうか

カムイも人間も3人兄弟で出てくる構造は、どれだけ一般的なものであったのだろうか

(おわり)